

# エコキャップアート完成品、展示期間延長決定!!



エコキャップアート実行委員  
柳原一将さん / 遠藤智光さん

「エコキャップアートという企画を通して、住民とみの~れの熱い想いと一生懸命さがひしひしと伝わってきた」と語る遠藤さんと柳原さん。

みの~れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ No.54

黄色く色づいた柚子がたわわに実っている。今年は未曾有の大震災があり、身も心も震えてしまった。それでも春には新芽が顔を出し、色とりどりの花を咲かせ若葉を茂らせ、実を結ぶ。今まで当たり前のように見てきたことが今年は改めて自然の力は凄いなと感じた。みの~れではペットボトルのキャップを利用して作ったエコキャップアートの展示がある。BIRDが皆さんの来館を心待ちにしている。そこで今回は、エコキャップアート実行委員である石岡地区にお住まいの柳原さんと玉里地区にお住まいの遠藤さん取材する。

## 完成品を見たときの感動は忘れられない

柳原さんと遠藤さんは職場が一緒で同じ歳ということもあり、息がぴったり。就職してから付き合いなのにまるで幼なじみと思えるくらい仲良しだ。二人とも体を動かすことが大好きでフットサルやテニスなど、球技系が得意だ。スポーツをする場所と機会があればいつでも行きます。と柳原さんと遠藤さんは話すと二人で一緒にスポーツを楽しむことも多く、体を動かした後に熱々のラーメンを食べに行くと楽しさ倍増だ。日々の生活が楽しくなるとか。二人はエコキャップアート実行委員会に入り、仕事が終わって都合のつく時には必ずみの~れに通った。「1回参加すれば実行委員というスタンスが、1回話せば友達というのと似ていて、放課後に集まっ

て活動する学生時代に戻ったような気分でも楽しかった」と話す。また、「キャップを集めてくるところから参加した。震災があつてからはほとんどのキャップの色が白に変わってしまったので必要な色を集めるのが大変だった」という。放課後子どもプランでワークシヨップに参加した子どもたち、この企画をサポートしていただいた中央高校の学生たち、そして実行委員のメンバーで構成された10代から30代の若者たちが力を合わせて創り上げ完成した巨大BIRD1羽と小さなBIRD21羽。今、みの~れの「風の広場」で気持ち良さそうに羽ばたいている。「11月3日のアピオス30歳・みの~れ10歳キックオフ・パーティー」で完成品を披露したとき、ワーツと歓声が上がるとても感激した。一つ一つパネルで作っていたときはあれ程のものが出て来るとは思っていな

かった。スケールの大きな企画に最後まで参加できて達成感を感じた。そして、何よりもこの企画に参加する時間は癒しの時間だった。この時間は癒しの時間を忘れ、何も考えずに作業にのめりこむことができた。ストレス発散の場でもあった」と話す。

また、みの~れに足を運ぶようになってから、普段では出会うことが出来た人たちと出会うことが出来て知り合いが増えたという。そして、みの~れではいろいろな楽しいイベントを企画していて、職員や委員の人たちが一生懸命に活動しているのが伝わってくる場所だと柳原さんと遠藤さんは話してくれた。このエコキャップアートに使われたペットボトルのキャップは発展途上国の子どものためのワクチンとなり、子どもたちの心のなかで羽ばたき続けることでしょう。